

世田谷の市民運動は50年前に始まり、脈々と続いていた！

～「遊べ！おとなたち」の報告～

雑居まつり実行委員会事務局 近藤 浩

6月21日（土）の午後、「遊べ！おとなたち」というイベントが行われた。認定NPO法人「プレーパークせたがや」が呼びかけ、「雑居まつり実行委員会」と「自主ようちえんひろば」が協力参加した。

まずはこのイベントの趣旨文からの抜粋・・・

【1975年前後、だれか個人の中に生まれた「やってみたい」という思いは、人に伝わり、それは連鎖していった。そして大きな波紋となり、最終的には全国にも広がっていった。「冒険遊び場・プレーパーク」「自主保育」「雑居まつり」。奇しくも小田急線沿線、梅丘～経堂の区間でほぼ同時期に始まった世田谷の新しい市民運動。それまでの市民運動が行政や議会に要求し、実行を迫るものがほとんどだった中で、「自分たちの生活課題は自分たちの手で！」という、自治を前提としたこの3つの取り組みは、それまでの市民運動の常識を覆したといえる。そして、自治と同時にこの3者に通底した思い、それが「遊ぶ」ことにある。（中略）

当時としては全く新しいスタイルでのこれら3つの市民活動がその活動を開始してから半世紀を迎えるにあたり、共通ワードである「遊ぶ」と「自治」について掘り下げたい。時代の変化とともに変わることも多かった中、それでも変わらずにきたことは何なのかを明らかにし、現代を生きる私たちができる伝え方、広げ方を探りたい。

昨年初めて制定された「国際遊びの日（6月11日）」。半世紀も大人がマジで遊んできたからできたこの市民運動を、もう一度見直していこう！】

そういう呼びかけに応じた方々が120名以上集まった。懐かしい顔もたくさんあり、会場は熱気に包まれていた。

第1部は、3者（冒険遊び場・プレーパーク、雑居まつり、自主保育）それぞれが50年前を振り返り、誕生に至る経過を報告。

冒険あそび場・プレーパーク・・・50年前、子どもたちの遊び場は道路だった。その道路が整備され、外で遊べなくなった。何とかしたいと思った大村虔一さん、璋子さん夫妻が桜丘小、和光小のお母さんたちと冒険遊び場を始めた。経堂の烏山川緑道から桜丘の区有地、そして羽根木公園へと場所を移しながらも、子どもたちの声を聴き続けるおとなたちが増えていった。

雑居まつり・・・脳性麻痺により車いすで生活している宮前武夫さんが、自分も施設ではなく普通にまちで暮らしたいと願う。世田谷で活動する団体のネットワークをつくるため、世田谷ボランティア連絡協議会を立ち上げた澤畑勉さんとともに、障がいを持つ、持たないを超え、お互い知り合い、認め合う場づくりが必要ということになり、雑居まつりを開催。

自主保育・・・母と子の「孤育て」はどうしても煮詰まってしまう。矢郷恵子さんが「野外で子育てしてみませんか」と区報で呼びかけ、集まった親子たちと自主保育を始める。その後、多くの自主保育や自主ようちえんが誕生。そして、子どもと親と保育者が一緒になって新しい「保育を」「環境を」「関係を」「社会を」創り出すため「新しい保育を考える会」を発足させる。

第2部では、7名のパネラーがそれぞれの活動を通しての思いを語ってくれた。

以下、パネラーを中心とした参加者の声・・・

○荒木直子さん（羽根木プレーパーク世話人）

羽根木プレーパーク・ひろば・雑居まつりに出会い、のめり込んで以来13年。それぞれの活動の成り立ちを点で見聞きしてきたが、本イベントの企画・開催の中で、3つの活動がどう影響し合い、今日までつながってきたのかを知り、そして世田谷で「本気で遊んできたおとなたち」の源流を体感することができた。昨今、どこも活動の継承に苦しんでいるが、「本気で遊ぶ魂を真ん中に置いて、明日も現場に立ちたい」と思いを新たにした時間だった。

○小峰真理さん（世田谷プレーパーク世話人）

この企画が始まった時に私には知りたかった事がありました。それは今世話人をしていて見えてきた、世の中が、世代が変わっていく中で変わらなくてはいけない事、絶対に変えてはいけない事はなんだろう。でも、このイベントでいろんな話を聞いて、私って深く考え過ぎ？もっと楽に考えていいんじゃない？と思えました。この言葉だ！とは言えないのだけど、たくさんの繋がりを大切に、やりたいう！って思った事をやる。それって楽しい事。だから私も遊ぶぞ！

○吉田柚香さん（雑居まつり事務局）

ワクワクする企画をありがとうございました！！

身近な存在だけどよく知らない、「プレーパーク」「雑居まつり」「自主保育」の歴史とその関わりについて、あらためて学ぶことができて楽しかったです！すてきな環境で育ててもらったんだなぁと実感しました。そして、第二部ではパネラーとしてお話しさせていただきました。なんてことのない思い出を、みなさんが面白がってくれたり真剣に聞き入ってくれたりして、とても嬉しかったです。

これからの50年も「遊び心」満載なこの場所たちが、つづいていけばいいな、つなげていきたいなと思える時間でした。

○福重佳代子さん（雑居まつり事務局）

雑居まつりの報告で流したインタビューは2015年のものだ。宮前さんの家に澤畑さんが車を運転して連れていってくれた。宮前さんは自分の思い通りにならない腕を椅子にしばって、私の質問に答えてくれた。あちこちに散らばっていた団体一つ一つに話を聞いたから、誰よりも詳しいのだと誇らしげに話してくれた。私が何度も「すごい、すごい」と称えたら、「すごくない。いち障がい者です」と言った。学校に行くのが嫌だった1人の障がい者が”むくっと起きて”雑居まつりをはじめたのだ。

「遊べ！おとなたち」の発言からは、知らなかったことに出会い自分が変わる事への感動が伝わってきた。謝り続けていた、差別していた自分に気づくこと、自分のルーツをさぐる事、恩を返したいこと。それは極々、個人的な動機で、50年前の宮前さんの姿とも重なった。

ただ投げられた課題「次代にどうつなげるか」の解決策は見つかっていない。雑居まつりでは、ここ数年ずっとそのことを話し合っている。今いる人だけががんばるのじゃだめなんだよな。いっしょにやってほしいとどう伝えるか、どうすれば雑居まつりが続くのか。これからも考える。

○福田智子さん（自主保育ひろば OB）

雑居・プレパ・自主保育、発端はどれもひとりの強い思い。

それも「誰もが皆共に！」という信念が人を呼び、輪になり大きな力となって50年。大人も子どもも、心を解き放ち時空を超え、自由を我が物として、とことん「遊べ」てきた幸せを今改めて思います。

自主保育が、少子化の進む中、なんとか繋いでくる事が出来た背景をこのイベントで、より深く認識する事が出来ました。

地元の方々のご理解とご協力と、多くの方々のお力添えで親も子も共々育てて頂いたと実感しました。

恩返しを恩贈りに！ 子どもたちに伝えていきたいと思います。

○花田朋美さん（自主ようちえんひろば 現役）

本企画に携わり、この3つの団体が50年続いてきたことにその必然性を感じました。共通するのが様々な生活課題を自らの手で解決しようとする当事者たちの運動であるということ。それを難しい顔をしながらではなく、大真面目に遊びながらみんなで作りあげていく、それが自治なんだなぁと思いました。

座談会では、「どうしてずっと関わり続けているのか」という問いにいろいろ考えたけれども、「楽しくてもうここから抜けられなくなった」というのに尽きるなぁと思っています。

まとめとして・・・

世田谷の市民運動は、まず、人と人がつながり、活動団体と活動団体がつながっていった。つながることで、お互い刺激し合いながら、次から次へと質の高い関係性が生まれていった。

そして、それは大きな輪になり、今もどんどん広がっている。

また、なぜそれが50年もの時を経て、継続しているのかというと、そこに参加しているひとりひとりが楽しみながら活動を展開しているからにほかならない。

まず、「遊べ！おとなたち」。楽しむことで、継続する。

今回、それを確認することができた。